



SAPANA

～あなたの食卓にひとりのお客様を～ No.30

認定NPO法人いきいきフォーラム草の根支援 HP: <http://www1.tcn-catv.ne.jp/ikiiki-kusanone/>

〒113-0023 東京都文京区向丘1-7-8 コミュニティスペース「ほのぼの」内 T&F 03-3816-5346

E-mail f-kusanone@tcn-catv.ne.jp 郵便振替番号: 00180-7-315287 フォーラム草の根支援「食卓の貯金箱」

ネパール大地震被災者救援募金に460万円集まる

今年度も三つの柱を立てて、活動します

理事長 宇野 真人

当法人にとって、一番忙しく、一番輝く夏の季節が終わりました。それは OK バジの来日とともに始まり、ネパールへの帰国で終わります。今年の夏はとりわけ暑くいい汗をかきました。この2ヶ月間いつものように、変わらずお元気で早朝から夜遅くまで、フル活動されていた OK バジには毎年のことながら、驚きでした。このパワーで、ネパールの地震の復興も引っ張っていただきたいと思います。

さらなるネパール地震救援を

さて私たちの年一回の総会は6月12日に開催されました。昨年度の活動実績は、定例の国際支援額(3カ国対象)220万円に加え、OK バジ在ネパール20周年を記念して100万円を特別に支援し、さらに会員の方の特別寄付375万円による支援も実施できました。

27年度は、定例の国際支援220万を維持し、加えて東日本大震災の被災地の子供たちの救援事業30万円を予定しています。事業計画の検討中に、ご存じのようにネパールで4月25日に大地震が発生し、大きな余震もありました。

私たちの支援先の学校も被災していることを知りました。そこで救援金の募金活動を事業計画に急遽組み入れ、早速活動を開始しました。皆様の熱いご支援でこれまでに460万円が集まりました。募金期間は後2週間ほどですが、皆さまの思いをOK バジに託し、ぜひ復興に役立てたいと思っています。

今年度の主な三つの活動

一つは支援金を募り、現地を支援すること、二つ目は広く皆様に私たちの活動内容を知っていただき、賛同者を増やす活動です。三つ目は現地を訪問して、私たちの支援結果の確認と現地の子供たちとの交流です。

二つ目の活動の中心は OK バジ講演会の開催です。今年は小学校、大学の特別授業あるいは団体での懇談会などとの橋渡しで、多くの方々に OK バジを知っていただくように活動しました。12月には恒例になったチャリティー公演も予定しています。

三つ目の現地訪問ツアーは、来春を予定しています。

総会では、毎年の現地との交流、触れ合いは、当法人が継続的に行っているユニークな活動で、事業の一つとしてもっと明確にすべきではとのご提案がありました。

新たな視点での活動を

このご提案を受け止め、12年にわたるネパール訪問やタイ訪問で、培った地元の人々との交流を図り、その学校で育った子供たちとの交流、現地の学校と日本の学校との交流なども積極的に考えていきます。今年度も、よろしくお願いします。

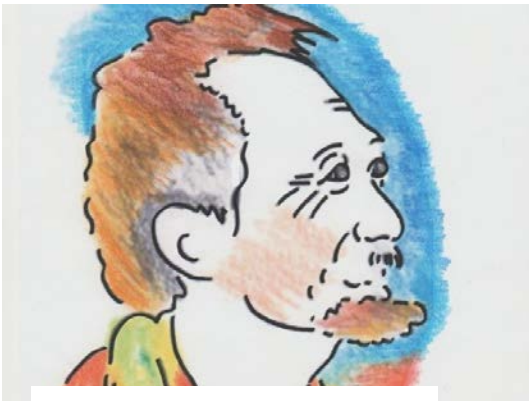


ネパール・OK バジ講演会報告

各地に感動の輪！未来への希望！

OKバジ講演会は6月8日より2ヶ月間、鴻巣・東京・横浜・大和・仙台・千葉等で開催され、当法人会員、食卓の貯金箱協力者の皆さんに改めて感動をよびました。OKバジは、各地の学校の生徒たちや保護者たちにもお話をされて、感動の輪と未来への希望を拡げられました。話を聞いた生徒たちなどの感想の一部を抜粋して、ご紹介いたします。

- ★ 私の心に残っている事は2つあります。まず1つ目は支援です。「**あるもので」「今から」「ここから」「誰から」「自分から」**誰かにやってもらう、人まかせにしているのはダメ。いつも自分から積極的に動くということが大切だと知りました。2つ目は「**ナマステ**」です。ネパール語では「**相手の心の中の神様にあいさつする**」でしたよね。相手の神様にあいさつする、つまりその相手は心がきれいだと私は思いました。私は将来、人の役に立つ仕事に就きたいです。栄養士など、料理に関する事で世界の人と関わりたいと思います。(新宿区落合第2小学校 6年生)



バジさんの似顔絵

- ★ネパールの人達は真冬でも半袖のような服を着ていたり靴がなかったりして、学校に通えなかったと聞いてかわいそうに感じました。そんな人たちを助けてあげたバジさんはすごいと思いました。バジさんが言ったように「**他人の幸せが自分の幸せだと思える人間になりたい**」です。(鴻巣南小学校 6年生)

- ★ 講演で私が最も強く感じたことは「**心の貧しさこそ真の貧困ではないか**」ということである。ネパールを貧困だと考えていた自分が恥ずかしく思えた。(淑徳大学 学生)

- ★ 日頃の生活を当たり前感じていた日々を、改めて感謝し、**小さなことにありがたみ**を持って、心豊かに生きていきたく思いました。(仙台 わかくさ幼稚園 保護者)

バジさんに会ってみたい！

仙台市立松森小学校2年2組担任菅原先生から次のようなお便りをいただきました。
「仙台での講演会に参加できずとても残念でした。良い機会でしたので、クラスの児童にネパールの話をすることにしました。垣見先生のご活動がネパールの子どものため学校を増やしたり、生活の全般を支えてくださったりしたことを知り、『うわあ～会ってみたい。』という素直な発言と輝く瞳につながり、ささやかなお手紙ですが、お送りいたします。」

- ★わたしは**バジさんに会ってみたいです**。バジさんお元気ですか。いつか松森小学校に来てくださいね。これからもがんばってください。(松森小学校 2年生)

* 講演会にご参加くださった皆様、お手伝いくださった方々に感謝いたします。



タイひよこホーム便り

山岳少数民族“ラフ族”の子どもたちが住むタイ北部の山の村々には学校がありません。町の学校の近くにある「ひよこホーム」で寮母夫婦と共同生活をしています

今年の卒業生の3人、皆さんの支援に感謝しています

今年の「ひよこホーム」卒業生は3人です。

お陰さまで3人とも進学する事ができ、「ひよこホーム」を出て新しい生活を始めました。8月からディセーとスティポーンは大学で英語を学びます。ピラパは専門学校に進みました。



ピラパ ディセー スティポーン

現在「ひよこホーム」から大学を卒業した子どもは2人います。勉強したいと願って頑張り、家族が出せるギリギリのお金に里親として支援して下さる方のご協力で、このように大学に行ける子どもがでてきています。本当に感謝しています。

今年入寮し、泣きながら学校へ行っ

ていた幼稚園生の2人は寮の生活に慣れて、元気に過ごしています。現在、円安（支援金の実質的な目減り）と物価上昇とでとても困っています。このままだと来年入寮する子どもを取れないかも知れません。心配ですが頑張ります。 God bless you all Yati



SEDS便り

連絡が取りにくい一端をご覧ください。
都市圏と地方の通信（電力）格差ですかね。

マニールさん

2015. 7. 8

いきいきは、例年通り、SEDSへの2015年度も資金支援することを決定しましたので、ご連絡いたします。従い、SEDSと2015年度支援契約締結の運びとなりました。いきいき理事会にて協議し添付の契約書案を準備しました。よければ、契約書を、郵送ください。

伏見さん

2015. 7. 15

ここ数日に亘りインターネットに問題が生じ、返事が送れたこととお詫びします。回線はインドの諸都市間や国際間のように速く繋がりません。電力が落ちるとインターネットは機能しないので、すぐにご返事をしなければならない際には、現在も将来もご迷惑をお掛けすることになり、困った問題です。

添付をご覧ください。いくつかの訂正後の、スキャンした契約書です。原契約書は郵送しました。SEDSは資金支援と報告書提出に同意します。よろしく願います。問題なければ、いきいきも署名し、1部をご返送願います。

以上の経過により、郵送された契約書の内容を確認して、7月 日に今年度の支援金40万円を送金しました。8月末に、契約書に基づき、報告書等を郵送いただきました。次号から、順次SEDSの現状など、本紙に掲載して参ります。

6月10日開催の第7回総会で、承認された決算書を掲載します。(補足説明は5Pを参照下さい)

平成25年度活動計算書

(平成25年4月1日から平成26年3月31日まで)

(単位:円)

科 目	特定非営利活動に係る事業の金額		注 記
I 経常収益			
1 会費収入			昨年度
個人会員会費	770,000		個人790千円、法人100千円
法人会員会費	100,000	870,000 ①	3月末会員 個人168(昨年176)名 法人2(昨年4)社
2 寄附金収入			昨年度
個人寄附金	912,283		個人427千円+委託465千円
委託寄附金	635,000		法人0円
食卓の貯金箱収入	1,911,955	3,459,238 ②	貯金箱1,373千円
3 事業収益			昨年度
講演会等催事開催収入	474,000		催事収入636千円、紅茶120千円
紅茶販売収入	99,500		
受取利息その他収入	12,537	586,037 ③	
経常収益合計	(I = ① + ② + ③)		4,915,275
II 経常費用			
1 事業費			ネパール1200+委託535千円
人件費	0		タイ600千円+100千円、インド400千円
国際支援支出額	2,902,880		OK/バジ報告会、シャンソンと落語の会
講演会等催事開催費用	293,520		福島の子供たちの世話をする2団体
東日本震災地救援活動	200,200		紅茶仕入代、ネパール土産等
その他事業支出額	157,018	3,553,618 ④	NPO事業費が経常収益の72.3%
2 管理費			総会議案郵送料等
人件費	0		毎月23千円、
総会・理事会開催費	11,440		郵送、電話、宅急便等
地代家賃	277,440		理事会、SAPANA発行作業時に支給
通信運搬費	300,126		伝票印刷、封筒印刷、各種文具等
旅費交通費	152,810		管理費が経常収益の19.4%
備品消耗品費	74,258		
その他費用	138,792	954,866 ⑤	
経常費用合計	(II = ④ + ⑤)		4,508,484
当期経常増減額	(I - II)		406,791
III 経常外収益		0	
IV 経常外費用		0	
税引前当期正味財産増減額		406,791	
法人税・住民税・事業税		0	
前期繰越正味財産額		4,112,912	
次期繰越正味財産額		4,519,703	

平成26年度会計監査報告

会計につきましては、特定非営利活動促進法に定められた NPO 法人会計原則に準拠した適正な処理が行われていることを確認しました。

平成27年5月11日

監事

兼田 俊男



監事

早川 正夫



平成 26 年度決算の補足説明

- 1) 26 年度の「食卓の貯金箱」の募金総額は 166 万円で前年度に比べて約 25 万円の減少でした。この要因は、前年度に大口の特別募金が 1 口で 30 万円があったためです。この分を補正しますと「食卓の貯金箱」の募金総額は順調に伸びているといえます。
- 2) 主たる事業である 26 年度の国際支援支出額は総額 695 万円と過去最高額となりました。ネパール (OK バジ) が 595 万円と従来の 120 万円から一挙に膨らみました。OK バジの在ネパール 20 周年記念を祝賀し当法人が 100 万円の特別増額を行ったのに加え、10 名の個人会員 (含む 1 グループ) から総額 375 万円の OK バジへの指定寄付金が集まったためです。
- 3) 26 年度の経常増減額 (年間収支額) は 92 万円の赤字でした。この要因は前項でご説明した OK バジに対する「在 20 周年祝賀の特別支援 100 万円」が、当法人のこれまで蓄積してきた基本財産を取り崩しての支援であったためです。つまり最初からの計画的な赤字であって、業績不振による赤字ではないことをご理解いただきたいと思います。



AGORA (広場)

この頁は皆様との楽しい交流の場です。
日頃お考えのこと、作品や写真など、
何でも結構ですからお寄せください。

振込用紙の通信欄より 今号は、この 1 通のみです。是非 1 言、書き添えください。

少額ですが、有意義に役立てていただくので、嬉しいです。又、「SAPANA」を通じて自分の周りとは違う世界のことがわかり、とても勉強になります。 7. 14 (K. M)

私たちが引き継ぎ、運動を続けている「食卓の貯金箱」を日本で始め、旧「世界の子どもと手をつなぐ会」の代表として活躍された坂田喜子さんの投稿文が中日新聞「戦後 70 年、発言」に掲載されました。「あなたの食卓にひとりのお客様を」と呼び掛け、途上国支援に携わり続けた坂田さんの思いの原点を、知ることができます。ご本人の了承を得て転載します。

戦後の苦労 支援の原点

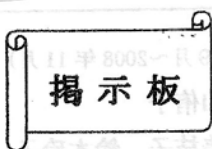
坂田 喜子 (岐阜市) 75 歳

私は七歳の時、旧満州 (中国東北部) から引き揚げてきた。引き揚げ船に乗る前に寒い兵舎で過ごし、人が亡くなっていくのもおぼろげに覚えている。

母になってから、インドシナ戦争で多くの難民が流出したことを「フォトアピール難民」という写真集で知り、自分の体験と重なり、百冊を売って歩いた。

食卓に貯金箱を置いて途上国の子にお金を送るオランダの運動を日本で始め、主婦仲間とグループをつくり子育てしながら国際協力活動を 23 年行った。インドなどを訪れ、教育や医療保健面の支援をしてきた。原点は、戦後の自分たちの置かれた状況だった。

幼い子ども四人を連れて着の身着のまま引き揚げてきた母の苦労。住む家も、父の仕事もなかった。弟は髄膜炎で亡くなり、お嬢さま育ちの母は暮らしの激変から精神の病に。私たち三人姉妹の青春は暗黒そのもの。戦争は多くの人々の人生の歯車を狂わすことを決して忘れてはならない。



1) 第6回チャリティ公演～「いきいき笑転会(落語)」開催のご案内

恒例となりましたチャリティ公演も、第6回目となります。

今回は、第3回チャリティ公演でご出演いただいた三遊亭兼好師匠を再びお招きし、落語を楽しむ会を開催いたします。

兼好師匠は、平成10年(28歳の時)にタウン誌記者などを経験したサラリーマン生活を辞め、三遊亭好楽師匠の二番弟子として入門、平成20年5月には、有望な若手落語家として「第13回林家彦六(八代目林家正蔵)賞」、この年、真打に昇進「兼好」を襲名、平成26年には、「平成25年度彩の国落語大賞」を受賞され、活躍中です。

①開催日時：平成27年12月13日(日) 14:00～16:00(開場13:30)

②開催場所：日比谷図書文化館 B1F 日比谷コンベンションホール

東京都千代田区日比谷公園 I-4

③演 者：三遊亭兼好師匠 と お仲間

④木 戸 銭：前売り券/予約 2000 円 (当日券 2500 円) 申し込みは事務局まで

2) 第8回定期総会を開きました

6月12日(金)13時30分より、東京・文京シビックセンター区民会議室A/Bにおいて、当法人の第8回定期総会が開催されました。

当総会出席会員数は105名(うち委任状による出席69名)で、162名(個人会員160名、法人会員2社)の過半数の定足数(81名)を充たし、総会は有効に成立しました。

26年度の活動経過・決算を満場一致で承認・可決いただきました。

議長に宇野理事長を選出して、議案の審議に入り、第1号議案「平成26年度事業報告書」及び第2号議案「平成26年度活動計算書」については、ほぼ方針に沿って、順調に活動できたものの、①東日本大震災被災支援事業は当法人の方針に適った支援先を見出すことが難しく予算を下回る実施に止まったこと、②若手会員増強の具体的な施策展開が不十分だったことが今後の課題として残ったことが報告されました。

出席会員から、会員からの受託支援について質問があり、当法人の活動目的に適った支援内容であるかぎり、基本的には会員や支援先の考えを尊重している旨理事長より回答され、了解いただきました。

27年度の方針・予算も満場一致で承認・可決いただきました。

第3号議案「平成27年度活動計画書」及び第4号議案「平成27年度活動予算書」については、①国際支援事業は、平年度ベースで実施すること、②東日本大震災被災支援は引き続き実施することに加え、③当年度4月に発生したネパール大震災による被災地の救援事業を活動計画の骨子とすると提案しました。

次に、①支援者層の拡大を目指した当法人ホームページの全面的改訂や、②在庫払底した「食卓の貯金箱」の追加印刷などの特別費用発生を組み入れた予算の説明がされました。

出席会員からは、支援先訪問ツアーを毎年実施していることが当法人の事業活動のユニークな点であり、国際交流も国際支援事業の一つとして明確に位置付けるべきであること、会員及び協力者とのコミュニケーションにコスト意識は当然必要ではあるが、心の交流という視点も配慮すべきであるなど貴重なご意見がありました。理事長は、ご意見を十分受け止めて今年度の活動運営を行うことを約しました。

3) 文京区NPO活動PRフェアへ参加します

昨年度から始まった、文京区に事務所を置くNPO法人が区民の方に活動を伝えるイベント「文京区NPO活動PRフェア」が、9月27日午後1時より、文京シビックセンター1F展示室他で開催されます。

昨年は、狭いブース（長机半分程度）の中のボードに、当法人のチラシや支援3ヶ国への支援状況の写真を展示しブースを訪れてくれた方々に、見ていただくだけでした。

今年は、「ネパール大地震からの復興の援助」のテーマで、30分のプレゼンスの時間をいただきました。会場のミニ教室は、文京シビックセンター1FのギャラリーシビックA会場です。13時50分から30分で行われます。

皆さん、是非ご来場ください。



「ネパール大地震被災者救援募金」へのご協力誠に有難うございました（8月末現在）

※詳細省略

「食卓の貯金箱」へのご協力誠に有難うございました（2015年6月～8月） ※敬称略

※詳細省略

「いきいき草の根支援」へのご協力誠に有難うございました（2015年6月～8月） ※敬称略

※詳細省略

理事会だより

※27年度の法人運営は昨年度に比べて落ち着くと思ったのですが全くの誤算でした。年度早々の「ネパール大地震」は、理事会の空気を一変させたのです。OK バジの復興への活動を背後から支えるために「ネパール震災救援口」の救援金集めに走り出しました。

※さらに周りをよく見ると、救援金集めが直接、間接の契機となり、多くの解決を必要とする重要課題が見えてきました。法人のホームページのバージョンアップの必要性、在庫が払底した貯金箱（紙製）の大量印刷、前号から始まった本誌 SAPANA の発送先の見直しによる通信費の大幅な増加、大量にご支援いただいた救援金寄附者に対する堅確な領収書発行の体制整備などです。

※また挑戦すべき事項が増えたようですね。

編集後記

※OKバジ經由中村・桐生・八田・米山・菅原さん達のご好意で、子どもたち、保護者らの感想文をご紹介できました。率直な感想が、心を和ませてくれますね。皆さん、いかがでしょうか。

※仙台支部の総会の出席に合わせて、理事の三人で、被災地の石巻、南三陸町を訪れた。車で2時間半走ったが、

「中心を除くと町も人の姿もどこにもないんだっちゃ。行き交う車は土載せたダンプだけなのしゃ。どこもボダ山のような、茶色の土盛りだけだっちゃ。立派な道路に人はいねんだけども、脇をタヌキっこが一匹トコトコ歩いてんだっちゃ。」※「」内は正調仙台弁土盛りされた上の新しい町が賑わうことを祈って、町を後にした。（宇野）